

# 宮崎まちづくり活動団体情報

VOL 6



## 第2回サイクリストと共に県道路肩清掃作業

令和2年8月1日(土)実施

次回からは「ロードクリーン」と呼ぶことになりました。

### 【サイクリング部会】

#### サイクリングの郷づくり実行委員会 (委員長 山口和雄さん)

##### ○ 関係人口創出・拡大事業のモデル団体研修から

岡崎市が「関係人口創出・拡大事業」のモデル団体に選定され、正式に国との契約が結ばれました。7月臨時議会において予算化され、宮崎まちづくり協議会がサイクリストと一緒に活動する事業が、動き出しました。総務省所管の事業に選定された全国25の団体は、6月30日(火)と7月10日(金)の両日、WEB会議による研修が行われました。市役所で行われた団体研修の内容を2点お伝えします。

一つは、明治大学農学部の小田切徳美教授による基調講演です。「関係人口と地域づくり」と題された講演で印象に残ったのは、「関わりの階段」です。まったく無関心だった地域に対して、あたかも階段を登るように、地域への関わりを深めていく例があるということです。例えば、観光地として訪れた地域で特産品を買うことから始まり、ふるさと納税などの方法で地域に寄付をしたいという動きになる。そして、頻繁にその地域を訪問するようになり、やがてはリピーターとなっていくということです。そこに、地域の困りごとなどへのボランティア活動をすることで交流が深まり、街に住みながらその地域にも居を構えるというような二地域居住のケースも出てくるということです。やがては、その地域に定住するという段階に発展するのが「関わりの階段」だということです。一度に「定住」を目標としてねらうのではなく、関わりをつくりながら一步步階段を登って「定住」にたどり着くというものです。

次は、7つの団体と一緒にいったグループ別ワークです。ここでは、各団体からお互いの事業の説明が行われ、講師がそれらの講評をするというものでした。岡崎市が入ったグループの担当は、総務省地域創造グループの角田秀夫・地域自立応援課長でした。2点ほどアドバイスをいただきました。

1点は、道路清掃などでサイクリストにやってもらうばかりでは、関係人口を集める際のデメリットになるのではないか、という指摘でした。この点は、サイクリストが使わせてもらっている道路への感謝の意味を込めて、地域のためになる活動を一緒にしたいという申し出があったことを伝えました。



2点目は、自転車試乗などのイベントは、サイクリストだけのイベントにならないよう、地域との連携が大切だという指摘でした。この点では、食事とか、休憩する場所を設定するなど連携する視点をもっていることを伝えました。

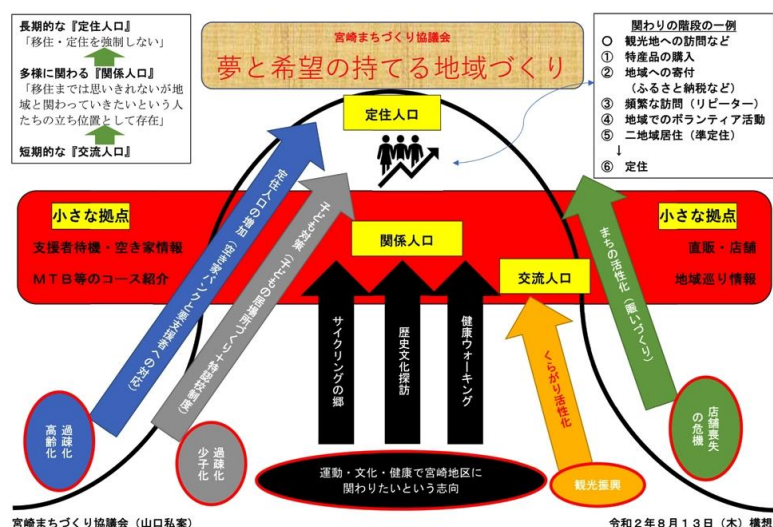
今後、マウンテンバイクコースづくりの活動や自転車試乗などのイベントが具体化していきます。これらを通して、サイクリストと交流し、「関わりの階段」を一步步登っていくこと、最後は少しでも定住者が増えていくことを願っています。そのために、宮崎会の皆さまにもご協力をお願いします。

【話題の事業紹介】

関係人口創出・拡大事業

〇注目されるキーワード「関係人口」

関係人口は、交流以上定住未満の人たちともいわれ、地方に新しい風をもたらす存在です。関係人口創出の取り組みは、移住や定住を促す事例も出てきているといわれます。宮崎学区活性化の一つの光明となるといいですね。宮崎学区では、「かき氷街道」として話題となり近隣市町からお客さんで賑わいます。宮崎に移住するのは無理だけど、かき氷やアユご飯を食べに行き地域との関わることができる人をお迎えするのが、関係人口創出ではないでしょうか。宮崎まちづくり協議会が目指す「関係人口との相関図」を紹介します。



【教育環境部会】

子どもの居場所づくり委員会 (委員長 鈴木久義さん)

〇宮崎小学校完全複式学級 (23人) から抜けるには？

小規模特認校制度 (以下「特認校制度」) は、学校選択制の一種であり特定の学校について、通学区域に関係なく市内のどこからでも就学を認める制度です。特認校制度を導入すれば、指定校における児童生徒数の増加が期待されるため、小規模校を存続する場合の教育の充実策の一つとして挙げられ、一定の児童生徒数を確保することで、規模が小さいことにより生じる可能性がある課題の緩和を目指すものです。学校存続を検討する中では、特任校制度を進めるのも一つの方向性です。

特認校制度を導入することにより児童生徒数の増加が期待されることや、「学校教育のみを考えるのではなく『地域とともに』という考え方が大切である」という審議会の協議で出された意見などを踏まえ、小規模小学校に対する望ましい学校規模に向けた取組方策の一つとするかどうか、その方向を定める必要があります。その上で、特認校制度を導入する際には、例えば、他都市の事例にもあるように、導入する学校の規模、導入の効果を見極める期間、特色ある教育課程づくりなど、一定の要件を設けて認めていくかどうかについても検討する必要があります。

【生活改善部会】

にぎわいづくり委員会 (委員長 平木教男さん)

〇先進地視察報告 新城市「やなマルシェ」

令和2年6月27日、閉店したエコープの跡地を有効活用した先進地視察をご紹介します。



新城市の黒田地域にあるJAプラザ (旧愛知東農協エコープ八名店) を利用して、毎週土曜日「やなマルシェ」という朝市が開催されています。Aコープ八名店が、来店客数の減少により2017年3月末に閉店。買い物だけでなく地域の交流の場でもあった同店の閉店は、地域住民に大きな衝撃を与えました。住民の声を受けてJA女性部の有志が発起人となり、2017年4月より毎週土曜日に朝市が開催されるようになりました。出来立ての八名コロッケ、地元野菜や手作りの加工品などのコーナーが並び、多くの住民でにぎわっています。買い物弱者の為に、JA愛知東の移動販売車も朝市に参加し人気のマルシェとなりました。オープンから2年。JAの協力で店舗を改装し軽食コーナーが設置され「やなマルシェ」は、地域にしっかりと根を下ろし、地域交流の場にもなっています。

【歴史文化部会】

歴史文化探訪委員会 (委員長 清水 力さん)

〇視察の紹介と雨山合戦慰霊祭を実施

歴史文化部会は、新型コロナウイルス感染予防を受けて、定例会 (毎月第2火曜日午後7時市民ホーム) 以外の活動は自粛しています。会議の中で、奥田さん (文化財保護審議会委員) 発見の小金城 (牧平町) の見学会を、涼しくなってから実施することになりました。また秦梨城跡の案内板の見学、雨山城跡の狼煙 (のろし) 及び物見櫓発掘計画の話し合いを行いました。9月8日 (火) の定例会では、日程など具体的な実施計画を決める予定です。興味のある方の参加をお待ちしております。



先日、町内会で雨山合戦に係る供養を行いました。8月23日 (日) 午後3時より、僧侶を招き雨山町内のお寺 (菩提院) で、雨山合戦で亡くなられた人の慰霊祭を行いました。その後、雨山ダム近くにある菅沼定村の墓で僧侶が経を唱え、町内の者でお酒や供物を準備して供養をしました。慰霊祭は、町内の年中行事として実施しています。

